

## 《 開催意義・基本方針（先催県との比較） 》

区分	第 39 回岐阜県【令和 6 年度（2024）】	第 40 回長崎県【令和 7 年度（2025）】	（案）第 41 回高知県【令和 8 年度（2026）】
開催意義	<p>岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤し、飛驒の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨くとともに、千有余年の歴史を誇る鶉飼などの伝統文化を育み、新たな未来を創造する源になっています。</p> <p>また、日本の中心に位置し、古くから交通の要衝・東西文化の結節点であったことから、様々な交流を通じて、祭り・踊り・地芝居など、地域に根付いた多彩な文化が生まれ、今なお大切に受け継がれています。</p> <p>本県では、こうした豊かな自然と長い歴史に育まれた魅力ある文化資源を全国に発信するため、1999年(平成11年)に第14回国民文化祭を開催しました。</p> <p>その後、大会の成果を一過性のものに終わらせることなく、そのレガシーを活かしながら、県民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、「清流の国ぎふ」を地域づくりのキーワードとして、様々な取組みを進めてきたところです。具体的には、「岐阜の地歌舞伎」や「関ヶ原古戦場」などの地域資源を磨き上げ、その魅力を活かしたまちづくりや、観光キャンペーンへの活用、さらに「白川郷」に加え、「清流長良川の鮎」、「本美濃紙」、「山・鉾・屋台行事(高山祭、古川祭、大垣祭)」といった世界遺産の登録などに努力してきました。</p> <p>また、2002年(平成14年)には、障がい者の芸術及び文化活動への参加を通じて自立と社会参加を促進するため、第2回全国障害者芸術・文化祭を開催しました。</p> <p>その後、2016年(平成28年)には、共生社会の実現を進めるべく、「岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり条例」を制定し、さらに2018年(平成30年)には、「岐阜県障がい者芸術文化支援センター（TASCぎふ）」の立ち上げにより、美術分野や舞台芸術分野に取り組む障がいのある方のサポート体制を整え、文化芸術活動を通じた個性と能力の発揮及び社会参加の促進に向けた取組みを進めています。</p> <p>一方で、現在、コロナ禍で様々な文化芸術活動が制約され、停滞を続けるという厳しい状況にあります。私たちは、社会全体が大きな不安に覆われている中、文化芸術が人々に癒しや安らぎ、そして明日への勇気を与えてくれるものであることを改めて認識することができました。こうした未曾有の困難を経験したからこそ、県民全体で文化芸術の灯を守り続け、将来に向けて希望と活力に満ちた地域づくり、人づくりの種を蒔き、育てていく必要があります。</p> <p>加えて、コロナ禍における移動制限や接触制限への対応として、オンライン化に代表されるデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速しており、文化芸術分野においても、実際に「見て」「聞いて」「感じる」ことを基本としつつも、デジタル技術を積極的に活用し、時間や場所を選ばず、誰もが気軽に親しめる機会を提供していく必要があります。</p> <p>こうした中、2024年(令和6年)は、前回の国民文化祭から四半世紀を迎える節目であり、同年には1984年(昭和59年)以来、本県で2回目となる「全国高等学校総合文化祭」が開催されるなど、これまでの取組みの集大成と新たな創造の出発として、本県が誇る地域資源やそれを支える県民の取組みを国内外へさらに広く発信する絶好の機会です。</p> <p>そこで、「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」を開催し、オール岐阜で取り組むことで、県民の文化芸術活動を継続・発展させ、清流がもたらした自然、歴史、伝統、技、文化などをあらためて知り学び、本県の魅力を発信していきます。</p> <p>また、オンライン通信やデジタル映像等の活用といった様々なDX推進の取組みにより、文化芸術とデジタル化の融合を図りつつ、年齢、性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが参加できる新たな交流によって、人と人とのつながりや生きがいを生み、アフター・コロナ時代の新しい未来の創造につなげていきます。</p>	<p>長崎県は、古くから日本の海外交流の窓口であり、先進の文化と技術の中継地として大きな役割を果たすとともに、西洋と東洋が融合した独自の文化を育んできました。</p> <p>「明治日本の産業革命遺産」、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の2件の世界遺産、「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」など4件の日本遺産、さらには世界の記憶「朝鮮通信使に関する記録」が登録されており、本県の豊かな文化が国内外から高い評価を受けている証です。</p> <p>そして、令和7年度は被爆80年であり、また、長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館開館20周年、長崎空港開港50周年、中華人民共和国駐長崎総領事館開設40周年を迎えます。この節目の年に、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭を開催することは、非常に大きな意義があります。文化芸術の振興はもとより、平和の大切さ、国際交流など本県らしい文化の魅力を広く発信し、国内外とのさらなる交流拡大につながる大きな契機となります。</p> <p>令和4年度の西九州新幹線開業により、国内外から県内各地へ多くの観光客の増加が見込まれます。本県は自然・歴史・文化・食・温泉などの豊かな地域資源に恵まれています。また多くの観光地を有する本県は、県民一人ひとりに「訪れた人をおもてなしする心」が根付いています。本県ならではの地域資源を最大限に活かし、国内外から訪れる人を心からのおもてなしをすることで、本県の魅力を発信する絶好のチャンスとなります。</p> <p>本県では、障害の有無にかかわらず、誰もが社会を構成する一員として、共に地域を支え合い、あらゆる社会活動に参加することができる平和な共生社会の実現を目指しています。国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催が、今後の県民の芸術文化活動や地域づくりにおける大きな財産となるよう取り組みます。</p> <p>県内各地の特色や歴史をふまえた地域文化や国際交流は本県が培ってきた財産であり、今後の地域の活力となります。県民一人ひとりが主体的な地域文化の担い手となることで、本県文化の価値を再認識するとともに、地域への愛着を醸成し、誇りを持って暮らし続けたいくなるまちづくりを目指します。</p> <p>国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭を一過性のイベントに終わらせないよう、文化を通じた「人づくり、基盤づくり、地域づくり」の仕組みを将来に継承していきます。</p>	<p>高知県は、輝く太陽のもと、黒潮が打ち寄せる変化に富んだ海岸線をはじめ、四万十川、仁淀川に代表される清流や緑深い山々など、美しく豊かな自然に恵まれています。こうした風土が自由で豪快な気風や大らかな中にも芯の通った気質と行動力に富む県民性を育んできました。</p> <p>そして、それぞれの地域では、古くから伝わる「神楽」などの無形文化財をはじめとする伝統芸能、「皿鉢料理」に代表される食文化、平安時代から脈々と引き継がれてきた「遍路文化」、「土佐和紙」「土佐打刃物」といった伝統工芸、変化を続けながら発展してきた「よさこい」、著名な漫画家を多く輩出した「まんが文化」など、特色ある文化、芸術を今に伝え、発展させてきました。</p> <p>こうした文化や芸術は、私たちの暮らしや人生を豊かにし、多くの人の心の支えとなってきました。文化や芸術を大切にし、次の世代に受け継いでいくことは、県民の誇りや生きがいにつながり、さらには地域の活性化にもつながっていきます。</p> <p>しかしながら、近年では、少子・高齢化と過疎化の進展に伴い「担い手」が不足し、次の世代への伝承が危ぶまれる伝統芸能も少なくありません。</p> <p>このような中、本県において国民文化祭を開催することは、県民一人一人が本県の文化の価値を再認識し、そして、文化芸術活動により一層親しむ絶好の機会となります。</p> <p>また、本県では、障害のある人もない人も、ともに支え合い、安心していきいきと暮らせる共生社会の実現を目指しています。全国障害者芸術・文化祭の開催は、障害のある人の生きがいや生活の質の向上につながるるとともに、地域の人々との相互理解をより一層深める契機となります。</p> <p>全国から注目を集めるこの大会をきっかけとして、本県における文化芸術のさらなる振興と、中山間地域などに残る伝統芸能の再興につなげ、本県が掲げる「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」の実現を目指していきます。</p>

区分	第 39 回岐阜県【令和 6 年度（2024）】	第 40 回長崎県【令和 7 年度（2025）】	（案）第 41 回高知県【令和 8 年度（2026）】
基本方針	<p>① 「清流の国ぎふ」の文化力を結集・発信</p> <p>文化芸術の灯で県民が一つになり、総参加で日頃の文化芸術活動の成果を発信する大会にします。</p> <p>また、本県ならではの自然、歴史、伝統、技、産業、暮らし、文化、食など、これまで発掘し磨き上げてきた持続可能（サステイナブル）な地域資源の魅力や、世界に認められた「ぎふブランド」を、県民の誇りとして、国内外に発信する大会にします。</p> <p>② 次世代を見据えた文化芸術の創造</p> <p>コロナ禍で縮小せざるを得なかった文化芸術活動を未来に向けて再び始動し、地域の文化芸術を創造する大会にします。</p> <p>また、デジタル技術を積極的に活用して、文化芸術とデジタル化の融合を図るなど、新たな文化芸術の価値を創造する大会にします。</p> <p>③ 文化芸術で人が輝く共生社会の実現</p> <p>年齢、性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが多彩な文化芸術に親しみ、その魅力を共有し、一人ひとりが輝く「共生社会」の実現に向けた大会にします。</p> <p>④ 国民文化の大交流の実現</p> <p>日本の中心に位置し、古くから我が国の東西文化の結節点である本県において、国内外から多数の人々が交流することによって、国内最大の文化の祭典に相応しい、多彩な国民文化の大交流を実現する大会にします。</p>	<p>① 歴史を紐解き、未来へつなぐ海外交流</p> <p>魏志倭人伝に記された壱岐・対馬や遣唐使の日本最後の寄港地である五島、大航海時代以降、西洋の音楽や美術、医学をはじめ、近代産業等の日本伝来の窓口であった長崎など、本県には海外との長い交流の歴史があります。これまでの国際交流の取組は本県の強みであり、文化芸術を通して県民の海外との交流を活発化させ、未来へと交流をつなげていきます。</p> <p>② 文化芸術によるまちづくり</p> <p>文化を媒体に、誇りを持ってまちの人が暮らしている、その姿を見て人が入ってくる、という好循環を創り出していくことを目指します。地域に根付いている伝統芸能や祭り、埋もれている文化の掘り起こし、新たな地域文化活動に取り組むことにより、暮らしたくなるまちづくりにつなげていく契機とします。</p> <p>③ 文化資源を活かした観光の推進</p> <p>豊かな自然や歴史の中で培われてきた本県ならではの特別な体験ができるプログラムを提供します。長崎検番や神楽、浮立など地域に伝わる伝統芸能や地域で異なる歴史や食などの文化資源を活かし、県民一人ひとりがおもてなしの心で、地域の魅力を発信し、国内や海外からの誘客につなげていきます。</p> <p>④ 若者や子ども達が創り出す新しい文化とながさきの未来</p> <p>県民が主体的に地域文化に取り組むことにより、地域で守り育ててきた文化の大切さを一人ひとりが再認識し、次世代へつなげる契機とします。次代を担う若者や子ども達が主体的に関わることで長崎の良さに気づき、ふるさとへの誇りや愛着を醸成し、「ながさき愛」を高めるとともに、新しい文化を生み出すエネルギーとしていきます。</p> <p>⑤ 文化芸術を通した平和の継承</p> <p>本県にはこれまでも多様なものを受け入れてきた寛容性があります。文化や国籍、価値観の違う人たちと交流し、お互いの理解を深め、多様性を尊重することが、人の心を豊かにします。県民が平和を身近なものとして捉え、文化芸術を通してその思いを表現し、行動することで、平和への願いを継承していきます。</p> <p>⑥ 心のバリアフリーの推進</p> <p>文化芸術活動を通して、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、互いに個性を発揮し、認め合い、共に楽しむことにより、社会を構成する一員であることを再認識し、相互の理解をより一層深める契機とします。</p>	<p>① 県民の総力を結集した文化の祭典</p> <p>地域の特色を生かした多彩なイベントを県内全域で展開し、若者や高齢者、障害のある人などすべての県民が主体的に参画する文化の祭典とします。</p> <p>② 特色ある文化芸術を全国に発信</p> <p>豊かな山・川・海の幸に恵まれ発展してきた食文化、「土佐和紙」「土佐打刃物」といった伝統工芸、今では海外にも広がりを見せている「よさこい」や「まんが」など、特色ある文化や芸術を全国に発信します。</p> <p>③ 中山間地域に伝わる伝統芸能の再興・継承</p> <p>少子・高齢化と過疎化の進展に伴い、担い手が不足し、存続の危機にある「神楽」などの伝統芸能を再興し、絶やすことなく次の世代に継承する契機とします。</p> <p>④ 国民文化祭を契機とした観光の推進</p> <p>本県ならではの特色ある文化資源を生かしたイベントや体験型・参加型プログラムなどを、観光施策と連動して展開し、国内外から多くの観光客を呼び込み、地域の活性化につなげていきます。</p> <p>⑤ 文化芸術を通した相互理解の促進</p> <p>障害のある人となない人が文化芸術活動を通じて、交流し、喜びを分かち合い、感動を共有することで、相互理解をより一層深める契機とします。</p>